

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2022年2月14日

【四半期会計期間】 第63期第3四半期(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)

【会社名】 株式会社焼肉坂井ホールディングス
(旧会社名 株式会社ジー・テイスト)

【英訳名】 Yakiniku Sakai Holdings Inc.
(旧英訳名 G.taste Co., Ltd.)
(注) 2021年6月29日開催の第62回定時株主総会の決議により、2021年
7月1日から会社名を上記のとおり変更いたしました。

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 阿久津 貴史

【本店の所在の場所】 名古屋市北区黒川本通二丁目46番地

【電話番号】 052(910)1729

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 山下 淳

【最寄りの連絡場所】 名古屋市北区黒川本通二丁目46番地

【電話番号】 052(910)1729

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 山下 淳

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第62期 第3四半期 連結累計期間	第63期 第3四半期 連結累計期間	第62期
会計期間		自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高	(千円)	14,900,742	13,514,268	19,733,351
経常利益又は経常損失 ()	(千円)	998,748	805,705	1,292,896
親会社株主に帰属する四半期 純利益又は親会社株主に帰属 する四半期(当期)純損失 ()	(千円)	1,121,697	620,961	2,015,071
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	1,121,940	621,138	2,015,308
純資産額	(千円)	7,661,675	7,376,954	6,768,303
総資産額	(千円)	19,110,424	16,812,397	17,630,250
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期(当期) 純損失金額 ()	(円)	4.90	2.64	8.74
潜在株式調整後1株当たり四 半期(当期)純利益金額	(円)	-	2.55	-
自己資本比率	(%)	39.9	43.6	38.1

回次		第62期 第3四半期 連結会計期間	第63期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2020年10月1日 至 2020年12月31日	自 2021年10月1日 至 2021年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 ()	(円)	0.09	4.76

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 第62期第3四半期連結累計期間及び第62期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という）等を適用しております。そのため、前年同期比は基準の異なる算定方法に基づいた比率を使用しております。

詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更等）」に記載のとおりであります。

（1）財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が経済活動に引き続き大きな影響を及ぼしました。緊急事態宣言とまん延防止等重点措置がすべての都道府県において解除された10月1日以降、国内の経済活動は再開し、緩やかな回復の兆しは見られたものの、感染力の強い新たな変異株による感染再拡大の懸念から、依然として先行きの極めて不透明な状況が続いております。

外食業界におきましても、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の解除に伴い、政府・地方自治体による営業や酒類提供の自粛要請等が解除されたことにより、個人消費は一部で持ち直しの動きが見られる状況となりましたが、新たな変異株の拡大懸念や資源価格の高騰等、依然として極めて厳しい状況が続いております。

このような状況の中、9月30日をもって各都道府県に発出されていた緊急事態宣言とまん延防止等重点措置がすべて解除されたことを受けて、主力事業である郊外型焼肉業態やファーストフード業態に関しては自粛期間からの反動もあり比較的順調な回復傾向が見られました。また消費者のライフスタイルの変化による在宅時間の増加等を背景として、テイクアウト・デリバリー需要の増加等により、子会社である株式会社テンフォーが展開する宅配ピザ業態は、前年同期の業績こそ下回ったものの、引き続き堅調な業績で推移いたしました。反面、首都圏及び郊外における居酒屋業態においては、本来最大の繁忙期であった12月の大人数での宴会需要が大きく減少し、厳しい状況が継続する結果となっております。

当第3四半期連結会計期間におきましては、変化する消費者ニーズに対応するための新たな試みとしてお客様との接触機会の軽減を目的に、当社初となる「特急レーン」を導入した郊外型焼肉食べ放題「肉匠坂井 枚方店」を11月に開店いたしました。また、比較的業績が安定しており、かつ低コストでの出店が可能な日常食事業として、石焼ビビンバ専門店「アンニョン サンリブシティ小倉店」を10月に開店しております。どちらもお客様に大変好評をいただいております。多店舗展開により次世代の事業の柱とするべく今後も検証・改善を続けてまいります。今後も当社グループといたしましては、郊外型焼肉事業を中心に、日常食・ファーストフード・デリバリーなど多業態を運営する強みを活かしつつ、感染防止対策を最優先に、より安心・安全な商品提供を心掛け、お客様にご満足いただける店舗づくりに努め、安定的な発展と業績回復に取り組んでまいります。

当第3四半期連結累計期間の全体業績といたしましては、売上高135億14百万円（前年同期比9.3%減）、営業損失15億8百万円（前年同期は営業損失13億97百万円）、経常利益につきましては、新型コロナウイルス感染症に係る助成金収入22億65百万円の計上等により8億5百万円（前年同期は経常損失9億98百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益6億20百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失11億21百万円）となりました。

なお、当社グループは「外食事業」の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

当社グループの直営店舗数は、契約期間満了、不採算店の整理に伴い5店舗を閉店した一方で、3店舗の新規出店を実施し、379店舗となりました。なお、FC202店舗を加えた総店舗数は計581店舗となりました。

財政状態につきましては次のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間末の総資産額は、168億12百万円となり、前連結会計年度末と比較し、8億17百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金、敷金及び保証金、土地が減少したことによるものであります。

負債総額は、94億35百万円となり、前連結会計年度末と比較し、14億26百万円減少いたしました。主な要因は、長期借入金（1年以内返済予定の長期借入金を含む）、社債（1年以内償還予定の社債を含む）、未払法人税等が減少したことによるものであります。

純資産額は、73億76百万円となり、前連結会計年度末と比較し、6億8百万円増加いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものであります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	673,477,576
計	673,477,576

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2022年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	239,866,162	239,866,162	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	239,866,162	239,866,162		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2022年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年10月1日～ 2021年12月31日		239,866		100,000		100,000

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2021年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2021年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,076,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 234,721,300	2,347,213	
単元未満株式	普通株式 68,762		
発行済株式総数	239,866,162		
総株主の議決権		2,347,213	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数22個が含まれております。

【自己株式等】

2021年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社焼肉坂井ホール ディングス	愛知県名古屋市区 黒川本通二丁目46番地	5,076,100	-	5,076,100	2.12
計		5,076,100	-	5,076,100	2.12

(注) 上記のほか、単元未満株式1株を所有しています。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2021年10月1日から2021年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、なぎさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,533,174	2,681,602
受取手形及び売掛金	501,430	953,828
有価証券	120,147	80,611
商品及び製品	109,407	115,699
仕掛品	3,011	3,011
原材料及び貯蔵品	353,296	457,767
その他	498,339	592,857
貸倒引当金	5,422	5,125
流動資産合計	5,113,383	4,880,253
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,519,111	3,464,679
土地	4,070,873	3,944,875
その他(純額)	439,181	442,870
有形固定資産合計	8,029,166	7,852,425
無形固定資産		
のれん	858,372	771,493
その他	143,881	141,147
無形固定資産合計	1,002,253	912,641
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,572,701	2,387,321
その他	1,338,278	1,204,849
貸倒引当金	425,533	425,093
投資その他の資産合計	3,485,446	3,167,077
固定資産合計	12,516,867	11,932,144
資産合計	17,630,250	16,812,397
負債の部		
流動負債		
買掛金	721,667	777,010
短期借入金	300,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	1,160,671	1,031,125
1年内償還予定の社債	628,000	368,000
1年内償還予定の新株予約権付社債	370,000	370,000
未払法人税等	206,669	88,285
引当金	42,533	31,058
資産除去債務	76,363	39,327
その他	1,542,663	1,622,237
流動負債合計	5,048,568	4,627,043
固定負債		
社債	712,000	528,000
長期借入金	3,583,228	2,815,297
退職給付に係る負債	45,868	43,899
資産除去債務	871,363	843,588
その他	600,918	577,613
固定負債合計	5,813,378	4,808,399
負債合計	10,861,947	9,435,443

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	8,876,313	6,813,107
利益剰余金	1,524,940	1,144,891
自己株式	728,663	722,275
株主資本合計	6,722,709	7,335,723
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	153	22
その他の包括利益累計額合計	153	22
新株予約権	45,747	41,208
純資産合計	6,768,303	7,376,954
負債純資産合計	17,630,250	16,812,397

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	14,900,742	13,514,268
売上原価	4,917,836	4,380,676
売上総利益	9,982,906	9,133,591
販売費及び一般管理費	11,380,863	10,642,469
営業損失()	1,397,957	1,508,878
営業外収益		
受取利息	5,182	5,792
受取配当金	476	484
業務受託料	39,775	41,461
受取解約金	22,092	9,531
受取保険金	15,639	7,186
助成金収入	356,126	2,265,904
その他	43,113	28,775
営業外収益合計	482,406	2,359,135
営業外費用		
支払利息	33,262	26,632
貸倒引当金繰入額	19	32
支払手数料	19,740	8,767
その他	30,213	9,184
営業外費用合計	83,197	44,551
経常利益又は経常損失()	998,748	805,705
特別利益		
固定資産売却益	26,786	18
投資有価証券売却益	250	-
関係会社株式売却益	4,553	-
特別利益合計	31,590	18
特別損失		
固定資産売却損	-	2,308
固定資産除却損	0	1,210
店舗閉鎖損失	93,638	3,732
店舗閉鎖損失引当金繰入額	50,450	5,578
減損損失	84,784	6,617
特別損失合計	127,973	19,448
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	1,095,131	786,275
法人税、住民税及び事業税	163,377	137,300
法人税等調整額	136,810	28,012
法人税等合計	26,566	165,313
四半期純利益又は四半期純損失()	1,121,697	620,961
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	1,121,697	620,961

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失()	1,121,697	620,961
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	242	176
その他の包括利益合計	242	176
四半期包括利益	1,121,940	621,138
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,121,940	621,138
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
<p>(会計方針の変更)</p> <p>(収益認識に関する会計基準等の適用)</p> <p>「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。</p> <p>これにより、フランチャイズ契約に係る加盟金収入については、従来、契約が成立し、フランチャイズ店舗を開店した時点で一時に収益を認識していましたが、開店時より契約期間にわたり収益を認識する処理に変更しており、加盟金獲得に関して支払った報酬についても、フランチャイズ店舗を開店した時点で一時に費用を認識していましたが、契約期間にわたり費用化する処理に変更しています。</p> <p>また、当社グループが仕入先から受取る専売契約の対価としての協力金については、従来、売上高に計上していましたが、商品等の納入価額との関連性を総合的に勘案し検討した結果、商品仕入金額と一体の取引と判断されるものについては、当該収益を仕入先へ支払う商品等の取引価格から減額する方法に変更しております。</p> <p>なお、受領した加盟金及び専売契約にかかる協力金等の契約負債は前受金(流動負債(その他))に、加盟金獲得のために支払った報酬については、長期前払費用(投資その他の資産(その他))に計上しております。</p> <p>収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。</p> <p>この結果、従前の会計基準を適用した場合と比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高が83,185千円減少し、売上原価が80,956千円減少し、販売費及び一般管理費が4,014千円減少し、営業損失が1,785千円減少し、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ1,785千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は12,513千円減少しております。</p> <p>なお、収益認識会計基準第89 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っていません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28 - 15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。</p> <p>(時価の算定に関する会計基準等の適用)</p> <p>「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません</p>

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
<p>(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は、現在も継続しており、当該影響を予測することは困難であると判断しておりますが、2022年3月期の一定期間は影響が継続すると仮定し、固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性等の見積りを行っております。</p> <p>しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大による影響は不確定要素が多く、当社グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。</p>

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
受取手形	- 千円	369千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
減価償却費	431,141千円	356,973千円
のれんの償却額	86,878	86,878

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後になるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

無担保転換社債型新株予約権付社債の権利行使

2020年5月7日に、第7回、第8回、第13回及び第14回無担保転換社債型新株予約権付社債の全部及び第10回無担保転換社債型新株予約権付社債の一部について権利行使がなされました。この結果、資本金が815,000千円、資本準備金が815,000千円増加いたしました。

資本金及び資本準備金の額の減少

2020年6月23日開催の第61回定時株主総会で、資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分の件が承認可決され、同年6月30日付で資本金が815,000千円、資本準備金が815,000千円減少し、その他資本剰余金に振り替えた後、その他資本剰余金のうち、1,529,052千円を減少して繰越利益剰余金に振り替え、欠損填補を行っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間末において、資本金は100,000千円、資本準備金は100,000千円、その他資本剰余金は8,776,439千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後になるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

当社グループは「外食事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

当社グループは「外食事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

当社グループは外食事業の単一事業であり、収益を分解した情報は次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
外食事業売上高	13,514,268千円
外部顧客への売上高	13,514,268千円
一時点で移転される財又はサービス	13,506,497千円
一定期間にわたり移転される財又はサービス	7,771千円
顧客との契約から生じる収益	13,514,268千円

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	4円90銭	2円64銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社 株主に帰属する四半期純損失() (千円)	1,121,697	620,961
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損 失金額() (千円)	1,121,697	620,961
普通株式の期中平均株式数(千株)	229,045	234,781
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		2円55銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(千株)		8,931
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 り四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要		

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年2月14日

株式会社焼肉坂井ホールディングス

取締役会 御中

なごさ監査法人

大阪府大阪市

代表社員
業務執行社員 公認会計士 山 根 武 夫 印代表社員
業務執行社員 公認会計士 西 井 博 生 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社焼肉坂井ホールディングスの2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社焼肉坂井ホールディングス及び連結子会社の2021年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レ

レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。